【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成25年2月14日(2013.2.14)

【公表番号】特表2012-515723(P2012-515723A)
【公表日】平成24年7月12日(2012.7.12)
【年通号数】公開・登録公報2012-027
【出願番号】特願2011-546449(P2011-546449)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　47/04　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/10　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/26　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/32　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/36　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/20　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/48　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　33/24　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 7/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　47/04
Ａ６１Ｋ　47/10
Ａ６１Ｋ　47/26
Ａ６１Ｋ　47/32
Ａ６１Ｋ　47/36
Ａ６１Ｋ　 9/20
Ａ６１Ｋ　 9/48
Ａ６１Ｋ　33/24
Ａ６１Ｐ　 7/00

【手続補正書】
【提出日】平成24年12月21日(2012.12.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
賦形剤とともに共沈された炭酸ランタンを含む、急速に分解できる医薬剤形。
【請求項２】
１００～１０００ｍｇの炭酸ランタンと、１００～１０００ｍｇの賦形剤と、崩壊剤とを含む、請求項１の医薬剤形。
【請求項３】
賦形剤が糖、五価アルコール、または六価アルコールである請求項１に記載の医薬剤形。
【請求項４】
炭酸ランタンは、賦形剤に対して１：１の比で、凍結乾燥または噴霧乾燥により共沈させられる請求項１～３のいずれか１項に記載の医薬剤形。
【請求項５】
崩壊剤がコロイド状二酸化ケイ素、二酸化ケイ素、デンプンおよびポビドンから成るグループから選択される請求項２に記載の医薬剤形。

【請求項６】
炭酸ランタンが水和されており、該水和された炭酸ランタンは、一般式：$La_2(CO_3)_3 \cdot xH_2O$を有し、ｘは４～１５の値を有する請求項１～３のいずれか一項に記載の医薬剤形。
【請求項７】
前記剤形は、炭酸ランタンの重さを基準とした２５％以下の崩壊剤を含む請求項２に記載の医薬剤形。
【請求項８】
経口用の固形剤形に圧縮されており、該経口用の固形剤形は、患者による服用に先立って液体へ溶解されるように適合されている請求項１～３、５、７のいずれか１項に記載の医薬剤形。
【請求項９】
２．５～５ｍｍｏｌ／ｇのリン結合力を有する請求項８に記載の医薬剤形。
【請求項１０】
高リン血症を治療するための請求項１に記載の医薬剤形。
【請求項１１】
$La_2(CO_3)_3$、マンニトール、コロイド状SiO_2が（１～７５）：（１～７５）：（０～３４）の比で混合された混合物を凍結乾燥または噴霧乾燥することにより調製された生成物を含む医薬剤形であって、
炭酸ランタンは６～１１モルの水の含水率に水和され、前記剤形は１９５秒～４００秒の崩壊時間と３．４～４．６ｍｍｏｌ／ｇのリン結合力を有する、医薬剤形。
【請求項１２】
前記比は、５：（３～５）：（０～２）である請求項１１に記載の医薬剤形。
【請求項１３】
急速に崩壊する医薬剤形を調製する方法であって、
水和炭酸ランタンを賦形剤とともに凍結乾燥または噴霧乾燥により共沈させることと、
共沈された水和炭酸ランタンを経口用の固形剤形に圧縮することとを含み、
炭酸ランタンは前記共沈に先立って賦形剤と混合される、方法。
【請求項１４】
賦形剤が糖、五価アルコール、または六価アルコールである請求項１３に記載の方法。
【請求項１５】
炭酸ランタンは、共沈に先立って前記賦形剤および崩壊剤に混合され、
前記崩壊剤は、コロイド状二酸化ケイ素、二酸化ケイ素、デンプンおよびポビドンから成るグループから選択され、
１００～１０００ｍｇの水和炭酸ランタンは、１００～１００ｍｇの賦形剤と、炭酸ランタンの重さを基準とした０～２５％の崩壊剤と共に共沈される
請求項１３または１４に記載の方法。